

## 令和元年度第1回 栗東市立図書館協議会 議事録

- 開催日時 令和元年5月25日(土) 10:00~12:00
- 開催場所 栗東市立図書館小会議室
- 出席者 澤絢子、國松完二、小幡庫士、奥野初恵、大屋邦代、宗本和子、青木春美  
伊丹佳美
- 事務局 図書館長、館長補佐、係長
- 欠席者 2人
- 傍聴者 0人

### 概要

1. 開会  
市民憲章唱和  
会長挨拶
2. 協議事項
  - ① 「栗東市立栗東西図書館のあり方(第2案)」について
  - ② その他
3. 閉会  
副会長挨拶

### 1. 開会

#### ●澤会長より挨拶

図書館職員が新しいメンバーとなった。今回は議題も「栗東西図書館のあり方」のみと限られているので、ゆっくりと時間をかけ、日ごろ出せないようなご意見もお出しいただきたい。

図書館関連の新聞記事を前会長の石田様よりご提供いただいている。普段目にする機会の少ない日経新聞などからもきめ細かく集めていただいております。熱い思いを寄せていただいているのを感じた。私たちも頑張っていかななくてはならないとの意を強くした。

### 2. 協議事項

#### ① 「栗東市立栗東西図書館のあり方(第2案)」について

資料に沿って事務局から、第1案からの変更点について説明。

#### ○本文について

(会長) 本文についての変更は字句を統一する、表現の重複を省くことを中心に変更されていた。

(委員) 「シニア層」の表現は、「高齢者」より幅が広い。言葉を使用すること自体は構わないが、計画等ではあまり使われない言葉遣いであるように思う。

計画の文中に、「一般成人の利用については、年齢層の偏りが特徴としてあげられます。利用の

多くを占めるシニア層は…」とあるが、公式の統計として、世代ごとの利用の推移は公表されていない。体感としてはわかるが、根拠となる数値をおさえておいた方が良いと思う。

(事務局) 平成30年度統計をもとに作業中である。まだ詳細を分析できていないが、実利用の割合に変動があるのは確認している。数値も出していきながら、ご理解を求めている。

(委員) 「図書館に対する市民の意識も転換期を迎えています」の根拠は。一般的にはそのような言われ方をするが、オーソドックスな利用を期待する人も多いのではないかな。

(事務局) 先進的な試みをしている図書館をメディアが取り上げることで、「栗東はできていない」という目が市民から向けられるのは感じている。個人が本を借りて生涯学習に使うだけでなく、皆さんが多様な価値観で使っていただくイメージで、この表現とした。もう少し表現を工夫したい。

(会長) 年齢層の偏りについて、具体的な数値を入れた方がいいかな。

(委員) 文中に盛り込む必要はないと思う。必要な時に回答できるようにしておいてほしい。

(会長) 「市民の意識も～」の表現については、「市民の意識も多様化し、転換期を迎えています」の表現でどうか。どのように多様化しているのかの根拠を図書館として持っておいてほしい。

○レイアウト案について

(会長) 前回の協議内容を踏まえた変更内容となっていると思う。

(委員) ドリンクコーナーには自販機などを置くのか。

(事務局) 置かない。持ち込みのペットボトルや水筒の利用を想定している。今までは館外に出で飲んでもらっていたが、館内で飲めるようにする。館外は夏季には気温が高くなるので、利用者からも要望が多い。子どもが一人で館外に出ずに済むようにする、防犯上の意味もある。

(委員) 名称がドリンクコーナーだと、自販機がある印象になる。名称を変更した方が良いのではないかな。

(事務局) 名称については工夫したい。

(委員) YAコーナー新設、中高生の利用促進の趣旨は良いと思う。このコーナーの運用について、勉強はしても良いのか。また、大人が使っても良いのか。

(事務局) 施設規模的に席数を確保できず、また、本来の図書館の機能とは異なるところではないかと思われるため、持ち込み資料で机だけを使う自習は、現在と同じく不可としたいと考えている。不可であることは明示し、既に設置している机と同じ運用にしたい。

大人の利用を禁止はしない。大人が興味を持ってYAコーナーの資料を見ることもありうるかと考えている。コーナー名は明示した上で、コーナー全体の雰囲気でも中高生優先の場所だということを感じてもらえるようにしたい。大人も利用もできることで、大人が自分の子などにコーナーの存在を伝えてくれるような流れもできると良いと思っている。

(委員) 中高生の声が大きくなりすぎた時などは、職員が声をかけると思うが、中高生が大きな声で話していることで、掲示や本を見たい大人が近づきにくいコーナーとならないかな。

(事務局) 近づきにくいほど賑わってくれたらありがたいと思う。現時点で解決策はないが、見たい方は、ぜひ気にせず近づいていただけたらと思う。

(委員) 乳幼児が靴を脱いで利用するコーナーと授乳室は、もっと近接した方が良いのでは。離れていると、母親は気にならないかな。

(事務局) 授乳室は防犯上、普段は施錠しているため、カウンターの近くに設置し、靴を脱ぐコーナーは、声が響く懸念などから今の位置になった。授乳室横には椅子があり絵本を読んで親を待つことができる。また、靴を脱ぐコーナーと授乳室の間は全て絵本架であるため、何とか運用できていると思っている。

(委員) YAコーナーは、入口から遠い。入口付近に案内がほしい。また、現在とても人の出入りの少ない場所であり、児童書コーナーとも離れているが、動線はどうなるのか。

(事務局) 中高生は、利用が児童書・一般書にまたがる。文庫の利用も多い。改修後に図書をどう配置するかは未定だが、例えば壁面の書架で、児童書コーナー側から児童向け文庫・一般文庫と並べ、YAコーナーにつながるような展開などが考えられる。いただいたご意見を念頭に配置を考えていきたい。

(委員) 団体作業室の利用には申し込みや予約が必要なのか。

(事務局) 団体同士で利用が重ならないよう、事前申し込みにより管理する必要があると考えている。利用予定がない場合は、突発的な申し込みでも利用してもらえらる。

(事務局) 日野町立図書館では、学校司書が一日の最後に図書館に集まり、情報共有していると聞く。将来的には、学校司書が集える場としても活用できればと思っている。会議室はそのまま併存するので、図書館関係のボランティア活動等に今まで通り使っていただける。

(委員) 現在、日野町・愛荘町は、図書館が主体となって学校司書を雇用し、学校に派遣している。趣旨からいえば、学校司書は学校教育課が雇用し、図書館は連絡調整や研修等のサポートを行うのが本来ではないかと思う。

(事務局) 現在、学校図書館リニューアル事業を図書館司書が主導して行っているが、学校教育課の兼務辞令が出て、学校教育課職員として事業に関わっている。今後もしリニューアルについては、この形を続けたい。将来的にどのように関わりを持っていくかは検討課題。学校司書の雇用は学校教育課になるが、サポートは必要と思っている。

(委員) 滋賀県は、学校図書館の整備では遅れている。

(事務局) 栗東は、学校司書の配置に関して、滋賀県の中でも遅れている状態。半歩ずつでも何とか進めていきたい。

(委員) 図書館担当の教師は、担任などの仕事を持った上での一分掌なので、学校の中に学校司書がいるとありがたい。

(委員) 現在のYAコーナーである「ホントノデアイ」コーナーは、翻訳物と和物との割合が極端に感じる。子どもたちが翻訳物を読まなくなったのか、図書館が購入をしなくなったのか。

(事務局) 良い翻訳物はたくさんあるが、「ホントノデアイ」コーナーに配置する本を選ぶにあたり、子どもたちの利用の動向に合わせて選んでしまったところはあった。

(委員) 昨年度までの「くりちゃんブック大賞」で中高生が読んでいた本も、ほとんど和物。児童書の翻訳物には大人でも読み応えのあるものはあるのに、子どもの読書力が届かないのかなとも考えていた。読書量が多くても翻訳物は苦手という子が多いと感じる。

(事務局) 大人も含め、本がビジュアルになって、字数が減って、軽いものが多く手にとられるようにはなっている。それ以外の良いものを伝えていくのも図書館の役割であるので、ご意見を伺って、反省点であったと感じた。今年度、YAコーナーにどのような本を置くかについて方針

を整理する予定であるので、いただいたご意見を念頭に、考えていきたい。

(事務局) このリニューアルによって西館のYAコーナーがかなり大きくなる。いろいろ工夫していきたい。中高生にとって、同世代の勧める本は手を伸ばしやすい。今年度実施予定の事業「くりぼん」も上手く活用していきたい。

(会長) 栗東西図書館が開館して12年、リニューアルは将来を見据えてのこと。一旦リニューアルをしたら容易には変更できなくなることを見据えた協議になったと思う。施設の制約上難しいこともあるだろうが、なるべく良い方向になるようにしてほしい。

YAコーナーは、対象者が利用する時間帯は限られるので、一般の方も大いにご利用いただきたい。地域の情報をしっかりと受け止めてもらえる場になっていくことを願う。

選書は、多くの方に読んでいただきたいと同時に、深いところを読んでほしいという願いもあり、難しいところかと思う。司書は気を配ってくれていると思うが、委員の皆さんも中高生へのおすすめ本があれば、声をあげてほしい。

学校図書館の充実にも励んでいる。学校司書が孤立することのないよう、支援を願いたい。

(事務局) 今回の協議をもとにした修正版を、議事録と一緒に送らせていただき、ご意見を確認した上で最終案を作成したい。最終案は、定例教育委員会で説明し、来年度の工事に向けて、市長などへの説明も行う予定。

## ② その他

(委員) 京都での図書館資料の投棄が報道された。こういった報道があると、本の管理をどうしているのかという方向に話がいきがちになる。

(事務局) タイミング的に他の大きな案件があり、県の教育委員会ではあまり図書館の話は出ていないようだ。栗東でも今のところ状況の問合せなどは来ていない。ただ、草津・守山がICタグの利用を開始したので、管理の問題を考えなければならないと思っている。

## 3. 閉会

### ● 國松副会長より挨拶

西図書館は、今の賃貸借契約が平成32年12月に終了する。全体のあり方を見直すには、良い機会となった。

新年度を迎え、市民としては念願だった司書館長が実現し、新しい職員も入った。協議会もサポートさせていただければと思っている。4月に市議会議員選挙があったが、栗東の財政状況もあり、経済的なことを公約にする方が多かった。市民の意見を汲んで声をあげていただくのが議会の役割でもあるので、図書館のことも良い形で働きかけていければと思う。

現在の協議会委員は10月が任期で、次回協議会が最後になるが、よろしく願います。

(事務局) これをもちまして第1回図書館協議会を終了させていただきたいと思います。ありがとうございました。

次回

令和元年9月7日(土) 午後2時～4時、本館小会議室